

いつも優劣をつけるのではなく、その道の専門において熟達している者が指導者になるべきです。自治体のことを気遣い憂える者こそ指導者としてふさわしく、東秩父村でもそのような考えで職員配置を行いました。

### 田中 秀雄議員

質問 消防団員の運転免許証について

(内容) 道路交通法の一部改正により、普通免許証では運転できない車両が4台あります。改正後に免許証を取得した団員が中型免許を取得するには費用が掛かるが、村の考えについて

質問 比企広域市町村圏組合を構成する市町村共通の課題として、活動に支障がないよう、また費用負担が過重とならないよう、配慮し、今後検討すべきものと考えています。

質問 無医村の状態にある老人医療について

(内容) 槻川診療所安戸分院に日赤またはその他医療機関から医師の派遣はできないか。

質問 比企医師会とも協議してきましたが、医師の確保は非常に厳しい状況にあります。地域医療の充実を図るため、高齢者の交通手段の確保等も含め、比企医師会や埼玉県など関係機関と連携し、検討してまいります。

### 根岸 文雄議員

質問 「若者が住みたくなくなる村づくり」について

(内容) 村では年々人口が減っており、活力が失われ危機的状況にありますが、それを打開していくには若者の定住を促すことが最重要課題と認識しています。そこで村の考えを伺いたい。

回答 現在、高まつている農村への帰郷願望は『地域の多彩な宝』を求めているためですが、その『宝』に東秩父村も当てはまると思います。それをよりよく輝かせるために、ここに住む一人ひとりが確かな存在感があり、政治は「信頼に値する人づくり」を基本理念として取り組めます。

質問 「若者が住みたくなくなる村づくり」の施策について

① 東秩父村の特産物をつくり、若者の働き場を確保する施策に着手するべきについて

回答 本村の特産物として花桃、おやき等があげられます。花桃の販売については共同販売の関係上、現状維持で、おやきに関しては新しい販売ルートの開拓により生産量の増加とともに雇用の場が作り出せるのではないかと考えます。

② 農地バンクについて、本村はいつから始めるのか。

回答 農地の取得、借り受けて農業をしたいといった相談は、ここ2年間でありませんでした。

農地を買ったり、借りたりするには、耕作面積20アール以上にする必要があります。また、農業経営を行える技術、設備があると見せせない場合は、農地の取得ができないため、それなりの農業経営者・経験者でないとなしと難しいと考えます。

③ 地域の若返りの基礎を築いていくためにも婚活支援を。

回答 以前、村においても結婚支援を計画して取り組みましたが、大きな成果が見られなかつたように記憶しています。村が主体の事業は個人のプライバシーに踏み込めない点があり、行政主体の実施はかなり厳しいという問題点があります。

④ 出生数の向上策として、第3子が誕生した場合、20万円の出生祝い金を支給してはどうか。

回答 子どもを生んで育てるの一番の障害は経済的理由と考えます。また、子どもを取り巻く社会環境も大きく影響していると思います。祝い金の支給は子育ての中の経済的支援になるのかと思いますが、子育てしやすい環境づくり等併せながら今後検討します。

質問 ハイキングコースの案内

板の管理について

(内容) 老朽化した案内板の点検について

回答 案内板について、七峰ハイキングコースは東武鉄道が、関東ふれあいの道等はコースの草刈請負業者が点検し、村に連絡がきます。この他不定期で担当職員が点検を行っており、ハイカーが安全で楽しく村内を回るよう気配りをしていきたいと思っております。

質問 護岸工事中止にかかる説明について

(内容) 役場の職員が地権者に施行の約束をした箇所が工事が行われず、中止となった経緯は説明すべきと思われる。

回答 説明不足があったという事は誠に申し訳ないと思うところであり、今後このような事が無いよう、注意していきたいと思えます。区からの要望があった場合は、現地調査を行い危険性、緊急性等判断し必ず文書で回答しています。また、工事箇所が変わったとした場合でも同様に文章等で回答します。

質問 安戸児童公園遊具修繕工事について

(内容) 当該事業の概要並びに進捗状況について

回答 遊具の中でチェーンネットクラムの鉄製チェーンが錆

や磨耗により擦り減り、児童の指が挟み込まれる危険があるため、ステンレス製のクロスチェーンに張り替えるものです。工期は1週間程度で完了する予定で、夏休み前に終わらせたいと思っております。

質問 第28回和紙の里文化フェスティバルについて

① 過去3年分の全体の来場者数、売上高について

回答 和紙の里製造所入り口で通過した人数です。平成22年度来場者2,010人、売上高69万8,410円、平成24年度来場者1,510人、売上高68万1,691円、平成25年度来場者1,307人、売上高49万3,188円

② 開催においては年1回ではなく縮小し回数に分けて開催するなど見直しをしてはどうか。

回答 今回で28回の歴史を刻んで参りました。この間、様々な工夫を凝らして参りましたが、その中には多額の事業費の投入や運営自体の問題点などが取り上げられ、その都度協議されました。実行委員会の中で、様々なご意見やご提案をいただきながら現在取り組まれており、今回のご提案は真摯に受け止めていただき、協議事項として検討してまいります。